

第6回映画産業の海外展開に関する検討会議 議事要旨

1. 開催日時 : 平成30年6月25日(月) 15:40-16:40
2. 開催場所 : 内閣総理大臣官邸2階小ホール
3. 概要 :

(1) 冒頭、西村康稔内閣官房副長官より、以下の挨拶があった。

内閣官房副長官の西村康稔です。よろしくお願いいたします。

委員そして関係者の皆様方には、お忙しいところお集まりいただきまして、有り難うございます。

本年のカンヌ国際映画祭におきまして、是枝監督の『万引き家族』がパルムドールを受賞いたしました。皆様の記憶にも新しいことと思います。

世界で名だたるカンヌ映画祭において日本人が活躍し注目を浴びたことは、世界に向けて、日本には非常に優れた作品を生み出す力があることを改めて示したという意味で大変大事な機会になったと思います。色々と物議を醸しておりますけれども、勿論、表現の自由、それぞれ考え方がありますので、我々としてはこうした文化作品、映画作品、優れた作品を世界に発信していくことにしっかりと応援をしていきたいと思っております。そのための会議でございますので、よろしくお願いいたします。

こうした歴史的な受賞を契機として、日本の映画産業がまさに一層の海外展開していくこと、これを政府としても引き続き環境整備をしながら応援をしていきたいというふうに思っております。

これまで本検討会議で実現を目指して参りました、これは萩生田前副長官の時から力を入れていただいて進めてきた「日中映画共同製作協定」につきましては、去る5月の日中首脳会談、李克強・中国国務院総理が来日をされたおりに、安倍総理の立ち会いの下、両首脳立ち会いの下、署名され、同日発効したところであります。

本年、中国では既に6本の日本映画が上映されており、本協定に基づく日中共同製作映画が製作・上映されることを更に期待をしているところであります。角川会長の『空海-KU-KAI-』も非常に好評を呼んでいるというところであります。この協定によって日本側の投資もしやすくなるということだと思いますので、是非活用していただければと思います。

また、今後のことでありますけれども、フランスでは、7月から、未だかつてない日本文化の祭典「ジャポニスム2018」が開催され、その中で日本映画の100年の歴史を振り返る企画が実施されます。フランスとの関係

におきましても、共同で何か作業ができないのかということで今検討を進めているところでもあります。

また、現在、「ロシアにおける日本年」が開催中でありますモスクワから極東まで幅広い地域で、著名監督の回顧特集上映から新作上映までを含めて実施しているところでもありますし、成長が期待されるアジアにおいても、インドやインドネシアを中心として、これまでにないような日本映画の集中的な上映を実施し、是非日本の映画のファン、日本のファンを増やしていきたいと思っております。

こうした動きを見据えながら、本検討会議を更に強化するため、本日の会議でワーキンググループを新設し、具体的な取組を是非詰めていければというふうに思います。

オールジャパンで日本の映画産業を盛り上げていく観点から、直面する課題を含めて、腰を据えて議論をいただく場として機能することを、期待をいたしております。

今日限られた時間でありませけれども、是非、忌憚のない御意見を賜りたいと思っておりますのでよろしくお願いいたします。

(2) その後、日中映画共同製作協定の署名について報告があったほか、この検討会議を更に強化するための、ワーキンググループを新設することが決定され、その他概要以下のような意見が交わされた。

ア 「日中映画共同製作協定」を如何に活用していくかフォローアップしつつ、映画上映会及び映画人交流を集中的に実施することで総合的に日中間の映画交流を活発化させていくべきである。

イ 経済的効果、文化発信の観点のみならず、映像を通じた日本ファンの獲得は、国益に資するという観点から、継続的に基盤整備を行っていくことが重要である。

ウ ワーキンググループでは、直面する課題に特化した専門家、監督及びプロデューサー、中小及びベンチャー等の会社からのヒアリングを行う等して意見を吸い上げ、オールジャパンで日本の映画産業を盛り上げていく観点から、議論していくべきである。

(3) 最後に、西村副長官より、委員の皆様からの活発な御意見に感謝したい旨挨拶があり、閉会した。

(了)